

3. 無認可保育園児のう蝕罹患の年次推移について

○津留 文子

(沖縄県中央保健所)

乳幼児のう蝕は近年減少傾向にあると言われているが、那覇市においても同様である。

しかし、3才児健診時のう蝕の減少に比べ、学童期、特に低学年ですでにう蝕罹患率が95%という数字をここ数年維持しており、幼児後期のう蝕発生も多いと考えられる。3才児以降就学児検診までに公的な歯科検診システムはないが、那覇市では市立、認可の保育園には年一回歯科検診が実施されている。しかし予算措置のない無認可保育園も数多いので、保健所の通常業務の合い間をぬって行ってきた過去6年間の歯科検診の結果を考察し、今後の保育所検診のあり方を検討したいと思う。